

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (53)
 (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

Trump 前大統領の掲げる標語 America First の背景には、元来が実業家の出身である彼の商取引(business transaction)をベースとした政治手法が終始見え隠れする。今回も彼の AMERICA FIRST. TRUMP FIRST. I AM HERE. の意味論(science of signs)的に面白い一貫した意識を good / bad の 2 項論理のもと、その wording を見ていきたい。

本連載(42)、前々回(51)などでも若干触れたのであるが米国の C. J. Fillmore は 1960 年代末に Case Grammar (格文法) を提唱したことで知られるが、その後の 1970 年～2000 年始めにかけて Frame Semantics (フレーム意味論) を提唱・発展させた。特に「商取引」のパターン例を示すことでこの意味論を展開したことがよく知られている。これはコンピュータ処理による今日的な corpus linguistics (コーパス言語学) の母体ともなっていて、データベースとして FrameNet で情報提供も目下なされている。

Frame Semantics は特に述語動詞 PV と名詞 N の valency (結合価) から lexical analysis (語彙分析) を試みるものであるが、よく知られている例が commercial transaction frame (商取引フレーム) の pattern である。Fillmore, C. J. *et al.* の論文 “Toward a Frame-Based Lexicon” (1992, p.79) を参考に筆者なりに日本語も加えた形で次に例を示してみる。背景で Basic First を意識した本連載であるが、仮称モデル MSOE [émsou] (Matrix Screen of Output English) [Basic 別名: ASMOE [ásmou] (Automatic Sorting Machine for Output English)] での pattern とも重ね合わせもしたい。

Commercial Transaction Frame (商取引フレーム)

Predicate Verb (述語動詞) の Semantic - Syntactic Valency (意味的・統語的結合価)

SIT \ SEN	<BUYER> (ヒト・買手)	<SELLER> (ヒト・売手)	<GOODS> (モノ・商品)	<MONEY> (モノ・貨幣)
buy	N ₁	(from)	N ₃	(for)
sell	(to)	N ₁	N ₃	(for)
charge	(N ₂)	N ₁	(for)	N ₃
spend	N ₁	φ	for / on	N ₃
pay ₁	N ₁	[N ₂]	[for]	N ₃
pay ₂	N ₁	(to)	for	N ₃
cost	(N ₂)	φ	N ₁	N ₃

(注) SIT: Situation SEN: Sentence

Trump 氏の America First の商取引もこれだということになる。ここでの項 N₁, N₂, N₃, φ (空) 表記は筆者風の MSOE / ASMOE モデルとの関連からであるが、C. J. Fillmore のものと中身は事実上同じとなる。ここでの 7 つの動詞 V の喚起語(evokers / evocators)が pattern として網羅されることとなる。動詞 buy は <BUYER buys GOODS from SELLER (in exchange) for MONEY> の pattern から定型文が言語化される。

buy と sell はそれぞれ John bought [got] the car (from Harry) (for \$50,000). / Harry sold [gave] the car (to John) (for \$50,000), etc. が具体例となる。charge の例なら Harry charged (John) \$50,000 (for the car). となる。これらを nominalization (名詞化) で一

括し John's \$50,000 agreement (N1) with Harry (ADV) for the car (ADV) のようにも示される〔なお、EP 本 II(p.14)に He gave \$132.35 for his ticket. という文例を見る〕。

物品の交換(exchange)から貨幣社会へという歴史的流れの中での商取引(commercial transaction)には契約(agreement)の成立、商品(goods)の空間(space)上の移動、所有権(ownership)の移換、買手・売手の視点(perspective)の交差、時間(time)の進行に伴う所有関係の変化(change)の状況などがある。同時にこれの言語化では時制(tense)、アスペクト(aspect)の問題が関わる〔商取引のルーツに関しては EP 本 III, pp.162-169 参照〕。

今日的な自然言語の機械処理からも C. J. Fillmore の Frame Semantics はフレーム要素の実現パターン(patterns of frame element realization)を提供する‘semantics of understanding’ (状況理解の意味論・記号論)として知られている。英語語彙の polysemy (多義性)は非母語話者にとり外国語修得を困難にするが、「語釈」として words (語)に照準する Frame Semantics は広く lexical semantics (語彙意味論) で注目に値する。

set theory (集合論) 風に示すことも含め words の①synonymy (類義関係) : $x \cup y$ [e.g., **argument** \cup **discussion**]、②antonymy (対義関係) : $x \Leftrightarrow y$ [e.g., **hate** \Leftrightarrow **love**]、③hyponymy (包含関係) : $x \supset y$ [e.g., **liquid** \supset **water**]、④meronymy (部分・全体関係) : $x \subseteq y$ [e.g., **finger** \subseteq **hand**]などに照準した construction grammar (構文文法) の構築が Frame Semantics の追究目標となっている。さらに本連載で見ているような語源的な paronym (同系語) への注目も事態を明確化するはずとなる。これを便宜的に記号 \equiv を用い⑤paronymy (系統関係) : $x \equiv y$ [e.g., **memory** \equiv **mind**]の例としておく。

word (語) になる以前の morpheme (形態素) への注目例として EP 本 I で knife の複数形 knives が p.77 で初出するが、どうとらえるか。structural linguistics (構造主義言語学) では音声 [nai υ vz] は morpheme の {knife} から morphophoneme (形態音素形) の m/naiF/、さらにその allomorph (異形態) として a/naif/と a/naiv/から来るとみる。このあたりから音声[vz]の例も説明はつく〔さらに EP 本 I, p.116, 4 行目、leaves を参照〕。morpheme と allomorph は違う〔cf. phoneme (音素) vs. allophone (異音)〕。

synonym (類義語) で P. M. Roget 風の thesaurus (シソーラス) への注目も見逃せない。たとえば synonym の shape と form の違い (form が上位語)、coast と shore の本来的違い (coast は陸から見た海岸、shore は海から見た海岸)、また land と ground の違い (land は海から見た陸地、ground は空から見てのもの) で視点が異なる。さらに部分と全体の関わりとなる beach と shore の違い (beach は shore の一部) など例には際限がないが、この種の語の distinctive feature (意味的弁別特性) を明示化しその network を追うのが C. J. Fillmore のフレーム分析である。ここでの lexeme (語彙素) のさらに上位抽象概念に structural linguistics での上記、形態音素 morphophoneme がある。これは形態素 morpheme と音素 phoneme の結合した意味の極小単位(minimal unit)である〔関連しては拙著(2016)、松柏社、第一部参照〕。

ここでの類義語 shape/form; coast/shore; land/ground; beach/shore で Basic 本体語は **form** と **land** であり shore がプラス α Basic 語であるが、coast, shore, beach はどれも Basic では **seaside** ということになる。したがって $\text{shape} \subset \text{form}$ 、 $\text{seaside} \supset \text{coast} \cup \text{shore} \supset \text{beach}$ 、また $\text{land} \cup \text{ground}$ という集合論風な示し方もできるわけであるが、語の意味分析上で Frame Semantics でも注目されてよいはずなのがやはり Basic 言語の語彙・意味体系であり **Frame Semantics** \subseteq **Basic Semantics** ということになる。

Frame Semantics (フレーム意味論) は古くはフランスの Lucien Tesnière (L. テニエール) [1893-1954]が提案した valency theory (結合価理論) に原点もあろうが、word

が一定の frame から喚起(evoke)され(One word calls for another.)、sentence として実現するのは化学的な valency (原子価結合)と似ている。言語で動詞 V と名詞 N (特に動詞派生名詞 VN) が共起(co-occur)する方法が問題となる〔valency theory に関する言及は同上拙著、第二部、例(90)参照〕。なお、*valency* はプラス α Basic 語であり Basic 本体語 **value** と同系〔これも同上拙著、第二部、例(90)参照〕。

上表で frame 要素列 (横軸) をシンタム(syntagmatic relations)、word 列 (縦軸) をパラダイム(paradigmatic relations)としそれぞれ SIT (状況)・SEN (文) とともに結びつくと考えが、詳細は目下思索中である。ここでの例は Ogden - Richards 風には「商取引」という context (状況・文脈) 下で車の売買 buying/selling the car が reference (指示)、金銭 money が symbol (象徴)、物品 car が referent (指示対象) となる。なお、意味の三角形で底辺の symbol と referent が点線ではなく実線となる例を *The Meaning of Meaning* の補遺で B. Malinowski が示している〔特に pp.323 - 326 参照〕。

今回(1)は米イラン関係、(2)は前回につづきメキシコからの不法移民政策としての DACA に関わる内容のものである。何かと丸分かりとなればよいわけである。

(1) While I very much appreciate P.M. Abe going to Iran to meet with Ayatollah Ali Khamenei, I personally feel that it is too soon to even think about making a deal. They are not ready, and neither are we! (June 13, 2019)

▲これは核開発を巡り対立する米国とイランの関係修復のため当時の安倍首相が仲介役としてイランを訪れ、ロウハニ(Rouhani)大統領と最高指導者ハメネイ(Khamenei)師と会談したときの Trump 氏の tweet であった。「安倍首相には感謝するが、取引は時期尚早で彼らにも米国側にも準備は整っていない」と言っている内容である。結果的に安倍氏のこのときの対イラン外交は失敗に終わった。

太線語 appreciate (感謝する) は音形 [pri:ʃ] の部分とその語形から、他に precious [preʃəs] (貴重な) などの語が直感できればかなりの域にある。「手でつかむこと」が原義である。母音の mutation (交替) は流動的であるが、一般に意味には変動は起きない。Basic 語 **price, prison** など、プラス α Basic 語 *praise* [preiz] (称賛) が同系である。un-Basic 語 prize (賞) なども同系〔同上拙著、第二部、例(22)参照〕。

太線語で Basic 語の **ready** の原義を心得ておくとよい。PIE etymon の音素形は /REIDH/ とされ原義が「馬で運ぶこと」で、旅で馬に乗り出かける準備ができていることが **ready** であった。Basic 語 **road** がその通り道のことと同系である。un-Basic 語では already {all + ready}、ride (乗る)、array (列・配列する) が同系。array はもちろん馬に関することからなる〔同上拙著、第二部、例(16)参照〕。

文中で下線とした with であるが、これが meet with someone のように meet と共起すると「改まって特別に会う機会とする」「接見する」の意味となる点には要注目。

さらに下線部 making a deal の deal (取引) は次の(2)でも 2箇所に見れる。要注目。

〔以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05) より — 2言語対照〕

(2) Statement by me last night in Florida : “Honestly, I don't think the Democrats want to make a deal. They talk about DACA, but they don't want to help. We are ready, willing and able to make a deal but they don't want to. They don't want security at the border, they don't want to stop drugs, they want to take money away from our military while we cannot do.” My standard is very simple, AMERICA FIRST & MAKE AMERICA GREAT AGAIN! (January 15, 2018)

cf. Mi declaración de anoche en Florida : “De verdad, no creo que los Demócratas

quieran llegar a un acuerdo. Hablan del DACA, pero no quieren ayudar. Estamos listos, dispuestos y podemos llegar a un acuerdo pero ellos no. No quieren seguridad en la frontera, no quieren detener las drogas, quieren quitarle dinero al ejército y eso no lo podemos hacer.” Mi norma es muy sencilla, ¡PRIMERO LOS ESTADOS UNIDOS Y QUE LOS ESTADOS UNIDOS VUELVAN A SER GRANDES! (15 de enero, 2018)

▲昨夜フロリダで言ったことは「民主党議員が取引(deal)を望んでいるとは正直思っていない。彼らは移民政策 DACA を口にするが、支援はしたがない。われわれとはまったく反対だ。彼らは国境の安全を望んでいないし、薬物の流入を阻止したがない。彼らは軍の予算をわれわれから奪い取っている。そんなことは出来ない。私の信条はきわめて簡単で米国第一。そしてこの国を再び偉大にすることだ！」という内容である。

文頭の Statement に The は略され Statement by me last night in Florida の下線部は The statement made by me の意味であるが、cf.のスペイン語訳のほうは Mi declaración de anoche (= My statement of last night)とされている。

太線語 security の意味を確認しておきたい。se は「離れていること」で、security {se = away) + (curity = care)}は「心配事から離れていること」の意味である。この se をもつ Basic 語に **secretary, secret** がある。元来は穀物の振り分け・選別の意味から来たと本連載(25)の(1)ですでに言った。穀物といえば cereal (シリアル) も同系語として一括される〔他に多くの同系語があるが、同上拙著、第二部、例(14), (128)参照〕。

文中二重下線の honestly など語末に現れる [stli] 音には要注目である。[l] 音に関しては前回(52)、[tli] 音は(43)、また [dli] 音は(45)の(2)で触れたが、[stli] 音も日本人の民族聴覚脳では処理しにくい。[stl] では歯茎で舌先をはじかせると本物には響かなくなる。マスクなどの装着状態ならどう響き聞こえるか？ 諸々の音環境(acoustic environment)での、言語学ではない物理学的・音響学的研究による実験データの提示が望まれる。

[tli], [dli] は英語に頻出する。Basic 語の場合での語尾 -tly, -dly で [tli], [dli] 音となる語をすべて次に列挙しておく〔[-tly] を単一下線、[-dli] を二重下線で示し区別する〕。

< Basic 語本体 850 語中 (派生語含む) で [tli], [dli] 音の現れる語 >

acidly, badly, brightly, coldly, completely, currently, deadly, differently, delicately, expertly, fixedly, flatly, firstly, forwardly, frequently, friendly, greatly, *hardly, importantly, kindly, lastly, lately, learnedly, limitedly, loudly, mixedly, nightly, oppositely, partly, presently, privately, quietly, redly, rightly, roundly, sadly, secondly, secretly, separately, shortly, softly, solidly, straightly, sweetly, tightly, tiredly, undoubtedly, violently, wetly, whitely, widely (*hardly は Basic では稀)

これで Basic 本体語での [tli], [dli] の現れる例は事実上すべてである〔50 (51)例〕。

cf. のスペイン語文での語 mi, declaración, anoche, de verdad, demócratas, acuerdo, dispuestos (< disponer), no, seguridad, frontera, detener, drogas, norma, sencilla, primero, Estados Unidos, grandes は、それぞれ英語の **my** (< I), declaration, **last night**, verily, democrats, **agreement**, disposed, **no**, security, frontier, detain, drugs, norm, single, primary, United States, **great** に対応するとともに、互いに同系語の関係にある〔太字体は Basic 語、Basic 範疇語 United States は下線としておく〕。

二重下線の quieran (< querer = want) と vuelvan (< volver = return) は心中の願望を表し叙想法である。文末の... QUE LOS ESTADOS UNIDOS VUELVAN A SER GRANDES! で QUE 以下は叙想法 VUELVAN となり叙実法 VUELVEN ではない。

